

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (いなべ市) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 11 月 22 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分

現地視察 9 時 00 分～9 時 35 分 (35 分間)

暮らしのショーレ視察

上木食堂視察

会場対談 9 時 35 分～10 時 00 分 (25 分間)

上木食堂

2. 対談場所

上木食堂 (いなべ市北勢町阿下喜 2057 番地)

3. 対談市町名

いなべ市 (いなべ市長 日沖 靖)

4. 対談項目

1 若者の創業によるにぎわいのあるまちづくりについて

5. 会議録

(1) あいさつ

知 事

皆さん、改めまして、おはようございます。今日は、阿下喜の町をたくさん観させていただいて、朝から本当に元気な皆さんと、それから、生まれながら地域に住んでいる人で地域を元気にしたいという人や、あるいは、他の地域からここに来てこの地域を元気にしたいと願っている人たちの熱い思いに触れる対談からスタートしたなと思っています。

まずは、全然関係ありませんが、福島県や宮城県で現在、地震・津波の警戒状況になっておりますので、これから無事であることをお祈りしたいと思います。また、三重県をみると、三重県南部は被害の心配のない範囲の海面変動ですが、若干の海面変動がありますので、三重県の皆さんにはぜひ注意を願いたいと思います。

それから、改めまして、日沖市長には、8 月 11 日に三重県で初めて開通した東海環状自動車道西回りの今後の延伸に向けて、本当に精力的に地元の企業の皆さんと一緒に国土交通省などへの要望も行っていただき、本当にありがとうございます。県北部において、少なくとも国体までに大変重要な道路ですから、引き続き連携をしていただければと思います。

それから、サミットにおいても、さくらポークなどたくさんいなべのものが使われましたので、これからさらにいなべの農業を PR していただければと思いますし、今三重県でも力を入れているモンベルさんの自然体験や、あるいはサイクリングなども、いなべで盛り上げていただければと思います。今日も自転車の人がいましたし、ここにもサイクルラックがありますし、いなべで非常に自転車が定着してきているという雰囲気を感じたところです。ぜひ、こういうオリジナリティ高い取組を引き続きやっていただければと思いますので、今日は限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

いなべ市長

鈴木知事、本当に朝からありがとうございます。

そして、東海環状は連続3回要望に行きました。本当にありがとうございます。

この上木食堂の松本さんもそうですが、若い方がどんどんいなべに来ていただいて、いろんな取組をしていただいております、本当にありがたいと思います。我々は、そういう方が活躍できる場づくりをしていかなければなりません。地域づくりには、よそ者、若者、と言われますが、そういう方がどんどん自分たちの発想で動けるような素地が地元の中でできるように、その信頼関係をつくっていく必要があると思っています。

(2) 対談

1 若者の創業によるにぎわいのあるまちづくりについて

いなべ市長

東海環状も含めて、いろいろ三重県さんには大変お世話になっています。心より感謝を申し上げたいと思っています。

ところで、今、庁舎建設を進めています。そして、庁舎だけではなく、その一部に「にぎわいの森」という商業施設を建てる計画があります。商業施設の中には、例えば大阪のラヴィルリエというフランス菓子の店など、大阪や名古屋で人気のあるお店に来ていただけるよう話を続けています。以前オーナーさんに、こちらで市民の皆さんと意見交換をしていただいた際、地元農家を回っていただいたところ、先ほどの小野さんのハウズキトマトやマイクロキュウリなどを、「トッピングとして欲しかった」と言われ、そのような食材が「いなべにあった」と驚かれました。小野さんは、最初、「田舎でこのトマトが売れるか」と、厳しいことも言われたそうです。田舎ではトマトというのはもっと大きなものだ、ミニトマトという小さいものが出てきたな、というぐらいの世界ですから、トッピングにしか使えないようなものは、需要がないと思っていたのです。

それから、この「いっちゃんたまご」は、発色剤を使っていないのです。割らせてもらっていいですか。

知 事

これは、一度すごいやんかトークで見せていただきました。

いなべ市長

そうです。一度生産者の方に会っていただいたと思います。

黄身がレモン色。これも、さきほどのラヴィルリエさんのパティシエさんに見ていただいたら、「この卵を探していたんだ」と言っていただきました。発色剤で色つきというのではなく本物の卵という意味でした。

一流の方に来ていただいてそういうマッチングが生まれ、そのように言うただくことによって、自信を持たれる農家さんがたくさんいます。これは、本当に心強いと思いますので、そういうことを広めていけたらという取組です。

近年、国において、地方創生を推進するための補助金を出してもらっていますが、

やはり人材が重要です。大都市や東京に人材も一極集中ですから、アドバイザーなどいかに優秀な人に来ていただけるか。そういうことをコーディネートする人がやはり不足していたのかなと思います。

この取組は、4年前から始めてやっとここまでできましたが、やはり橋渡しをする人がいないとなかなか難しいと思います。一度、何かのきっかけで来ていただくと、寺園風君や、松本さんが橋渡しをしていただいたり、小野さんも自身の取り組みを発信したり、とそういう輪が広がっていきます。今ちょうどいいように回ってきているかなという感じです。

知 事

いろんな人材をとということについては、地域おこし協力隊は県全体では56人で、いなべ市をはじめとして9市町でいらっしゃるのですが、そのうちいなべ市が15人で一番多い状況です。去年、自転車と一緒に走っていただいた位田さんも地域おこし協力隊ということで、そういう人材を積極的に活用されています。

それから、いなべ市さんは呼び込むための情報発信について、非常にオリジナリティの高い取組をしていただいています。

まず、一つは、三重県では、東京に「ええとこやんか三重 移住相談センター」という相談窓口を設置していますが、昨年度約750件の相談があり、今年度は10月末までで615件ですので、去年を大きく上回る可能性が高い状況です。相談の中では、「環境のよいところで子育てをしたい」と回答した割合が、昨年度は10.6%でしたが今年度は12.1%に増加していますし、40歳代以下の相談者の割合も、去年は65%でしたが今年度は74%ということで、そういう子育て世代や40歳以下というところが重要ターゲットになってきている中で、「いなべに住むに」というこの移住パンフレットです。最初見たときに、絵本かなと思いましたが、絵本仕立ての、子育て世代が関心を持ちそうな雰囲気であるうえに、中にも「いなべで子育てしよに」ということでいろいろ書いてあり、寺園さんがこうやって子育てしている様子も載っています。移住したいと思っている人のターゲットに合わせた発信の仕方が、寺園さんや松本さん、三浦さん、小野さんたちのように、いなべに来よう、あるいは、戻って来ようと思うような、そんなきっかけになっているのかなと思います。

それから、移住の専門誌でTURNSというのがありますが、それを活用した体験ツアーもやっていただいています。

移住相談センターで相談を受けていて思いますが、のべつ幕なく薄く広く砂漠に水をまくような情報提供をしても、結局はあまりうまくいかなくて、本当にニーズのある人に個々に深い情報をしっかり提供することが重要で、こういう子育て情報もそうですし、移住センターでは就職のアドバイザーも常駐で配置して、仕事の部分について面倒をみるというようなこともしています。そういう意味では、いなべ市さんの、「こういう人に来てもらう」という形の情報発信は非常にオリジナリティが高いと思います。

来月、13県の若手の知事で構成している将来世代応援知事同盟が、移住フェアを東京で開催しますので、そういうところでも、こういう皆さんの取組をどんどん紹介していきたいと思っています。

いなべ市長

本当にいろいろ応援いただいて、ありがとうございます。我々は、ターゲットを絞り、このいなべの自然とアウトドスタイルや農・食など、そういったものに関心のある人に来ていただこうと思っています。ですから、先ほどお話のあった「のべつ幕なし」のアプローチはせずに、今あるいなべを好きになっていただく方に来ていただきたいという思いです。

農業もそうですが、大市場に対していなべ市は量でアプローチはできません。ですから、ニッチな市場において、本物の価値を見い出していただく方にお届けできたらという思いがあります。

かたや、三重県において大市場を作っていたきたいと思います。同じ三重県の牛肉であっても松阪牛、伊賀牛、みえ黒毛和牛といった3つのブランドに分けると量が減ってしまいます。ですから、全世界のマーケットに対してアプローチしなければいけないものは量が要りますので、できればそういう市場は県において拡大をしていただけるとありがたいです。

そして、我々の取組には、ニッチな市場をやらざるを得ないので、それを評価していただくお客さんにお届けするためのネットワーク、綱渡しをする人が必要不可欠になります。人材やネットワークの支援を三重県さんにもお願いできたらと思います。

知 事

そうですね。先ほどの大阪のパティシエの、小野さんのトマトを発見した方もそうですが、今まで私たちが「ええっ」と思っていたものが一流の人に使われていくということ、先日、如実に目の前で見ました。

今回、フレンチの三国さんと中華の脇屋さんと日本料理、吉兆の徳岡さんを「みえ食の国際大使」に任命させてもらい、展示会で三重県の食材をずっと見てもらいました。これはいなべ市のことでなくて申し訳ないですが、伊勢のネギの見せているほうではない、ネギを切った捨てるほうの部分がたまたま横に置いてあり、それを見た中華の脇屋さんに「これ、捨てるのか？」と言われ、「はい、捨てます。今まで全く使っていません。」と答えました。中華にはネギ油など、いろいろネギを使うことがあって、そういうのに使えるということで、その後、彼が香港で行うフェアに早速持っていきました。

大阪の事例もお聞きして、そういう一流の人との出会いというか、目線が変わったりする出会いを、先ほど市長もおっしゃっていました、場づくりという形で我々行政や、ネットワークを持っている皆さんが協力してやるということは、大変重要なことだと改めて思いました。

先ほど、三浦さんのところへ行ったときも、「何十年ぶりに人と人がつながった」、「近所なのに普段あまり話さなかったけれど、そこのライブを見にきて話すようになった」など、今、右肩上がりではなく地域資源が乏しい中、もう一度つながり合ったり、新たなつながりというのは極めて重要になってきていますので、そういう場がこの阿下喜にたくさんできていると改めて感じ、すごくいいことだと思いました。

いなべ市長

本当にありがとうございます。

それから、オーガニックのお店で、フェアトレードを推奨するようなフェアトレードシティというのがあるらしく、熊本から始まって、名古屋、札幌、次に逗子市でしたか、日本で4つ登録されているらしいです。それで、5番目に手を挙げたいと思っています。

そういったフェアトレードのお店を一定量増やして、そのシティ宣言をする。そういったことも広め、発信できたらと思っています。

知 事

それは、国際機関のような、第三者団体みたいなのが認証するのですか。

いなべ市長

そうです。

知 事

それは面白いですね。サミット後の取組として、ブルーシーフードという、ブルーシーフードガイドラインみたいなのがあって、環境にいい持続可能な魚を提供している店などを認証していく制度なのですが、三重県が日本で初めてそういうことをやるという取組をこれからスタートしようかなと思っています。確かに有機のオーガニックやフェアトレードについても、私はそれを知らなかったのもたまたま勉強して、資源管理や有機など、そういう持続可能な食べ物を推奨している町というのがどんどん広がっていくといいと思います。私たちもしっかり勉強したいと思います。

いなべ市長

ありがとうございます。

(3) 閉 会

知 事

今日はありがとうございました。早朝から皆さんお越しいただきありがとうございました。それから、登場していただいた寺園さん、松本さん、三浦さん、小野さんありがとうございました。

先ほどお話を伺ったら、「最初はみんな何をやり始めているのかと地域の人は思っていました、この4年間続けてきたことで、段々みんなの意識が変わってきた」というようなお話も皆さんからお聞きしまして、やはり最初の一步を踏み出していくことが大事だということと、それから、皆がつながっていくということが大事だということ、そして、やはり他者を排除せずいろいろな価値を寛容に受け入れていくということが、本当に多様な社会なんだということを改めて感じまして、そういう素地ができつつあるこの阿下喜地区のいい取組を紹介していただき、大変参考になりました。私もいろいろなところで発信をしていきたいと思いました。

これからも、どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。